

平成 27 年度 糸魚川市教育課程部 活動報告

部長 笹川 隆

1 糸魚川市教育研究会の活動方針と組織

糸魚川市では、市内の小・中学校、特別支援学校の教職員で「糸魚川市教育研究会」を組織して、教育実践に努めるとともに糸魚川市の学校教育の振興を図っている。研究推進の組織は、各教科等、道徳、特別活動、保健、栄養、事務の15部会（全会員が1人1部会所属）の他に、キャリア教育、学校図書館、生徒指導、へき地・複式、情報教育、特別支援教育、人権・同和教育の7部会の計22部会で構成している。その中には、教育課程部会は設けられていない。

2 糸魚川市子ども一貫教育に基づく「ジオパーク学習の充実」に向けた取組

糸魚川市教育委員会では、平成22年度に「子ども一貫教育基本計画」を作成して、翌年度から各校及び中学校区単位での実践的な取組を行っている。「ひとみかがやく日本一の子ども」を目指して、「健やかな体の育成」「豊かな心の育成」「確かな学力の育成」「特別支援教育の充実」「ジオパーク学習の充実」の5つの目指す方向（育てたい力）を掲げている。中でも特徴的なのが「ジオパーク学習の充実」である。ジオパークについては、本年11月に、ユネスコ総会の本会議において、ユネスコ正式事業化の議案が可決され、本市では、これを契機に一層のジオパークの周知及び活用を図っていく方針である。ふるさと糸魚川への愛着形成を図ることを目的とした、各園・学校の実態に合わせた体験・学習活動が、今後さらに充実するよう、積極的に取り組んでいきたい。

（1）糸魚川ジオパーク学習交流会

各校のジオパーク学習内容を発表し合う「糸魚川ジオパーク学習交流会 2015」が、11月18日（水）に、「ビーチホールまがたま」を会場にして行われた。交流会は毎年開かれ、本年度は小学校12校、中学校2校、高等学校1校が参加している。各校が一堂に会し、学んだことを発表し合ったり、感想を述べ合ったりすることで、学校や年齢を超えて交流を行い、地域への思いや願い、愛着を深める良いきっかけとなっている。

（2）教科の学習とジオパークとを関連付けた副読本や資料の作成とその活用

理科学習の副読本として、平成23年度には、「小学校5・6年生用のジオパーク理科副読本」を、翌年には「3・4年生用のジオパーク理科副読本」と「世界ジオパークまると糸魚川資料集」を作成し、児童・生徒及び教職員に配布した。現役の教職員が中心となり、大学教授や地元の関係者などの協力を得て作成した副読本と資料集は、理科や社会科、総合的な学習の時間などで有効活用されている。

（3）糸魚川市ジオパーク推進室と連携した「中学生香港派遣」や「ジオ給食」の実施

世界ジオパーク姉妹都市である香港への中学生派遣事業は、香港ジオパークを見学することで、身近にある糸魚川ジオパークの素晴らしさを再認識し、異文化に接することで国際感覚を磨くことを目的として行っている。また、食育の一貫として、各校独自に地元の食材や食文化を取り入れた毎月1回の「ジオ給食」を実施している。

3 成果と課題

糸魚川市では、5年前からふるさと糸魚川への愛着形成を図ることを目的として、上記のようにジオパーク学習の充実に努めてきた。その結果、全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査では、「地域の行事への参加」や「地域や社会への関心」の項目で、県や全国を上回る数値を示している。一方「将来の夢や目標」については、県・全国を下回っており、自己肯定感や自己有用感を高め、他者と豊かに関わりながら、自己実現を図っていくことのできる子どもの育成が課題となっている。現在、第2期の「子ども一貫教育基本計画」の策定作業が進められているが、キャリア教育の充実等が一つの柱となる。各学校では、この点を踏まえ、ジオパーク学習を一層進めるとともに、夢や希望を育む教育を充実させていかななくてはならない。